

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月11日現在

機関番号：21201

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20710192

研究課題名（和文） インドネシアにおけるイスラーム主義急進派のイデオロギーと実践

研究課題名（英文） Ideology and Practices of Radical Islamists in Indonesia

研究代表者

見市 建 (Miichi Ken)

岩手県立大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：10457749

研究成果の概要（和文）：

資料の収集と読み込み、武装闘争派への継続的なインタビューを通してその思想と社会的な背景を明らかにした。また武装闘争派の映像およびインターネットの利用、穏健な福祉正義党党员による出版ビジネスについての研究成果を発表した。イスラーム主義勢力はそれぞれの目的を達成するために、「市場」動向に敏感に反応し、思想やイデオロギーをVCD や書籍、ウェブコンテンツとして「商品化」をしている。報告者はイスラーム主義を広くインドネシアの社会的文脈に位置づけ、その市場戦略を詳細に分析した。

研究成果の概要（英文）：

Through collecting and reading of their documents and continual interviews with activists, I revealed ideological traits and social backgrounds of militant Islamists. I also researched and published on usage of videos and internet by militants and publication business by cadres of moderate Prosperous Justice Party (PKS). Islamist movements adjusted market tendency and “commodify” their ideology and packaged as VCD, books and web contents in order to promote and realize their aim.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：インドネシア、イスラーム、イデオロギー、政治運動

1. 研究開始当初の背景

インドネシアにおいては、2000年以降宗教の名の下に暴力的な事件が多発している。暴力の具体的内容は、①反イスラーム的とみなされる政治権力や西洋の権益や人への攻撃、②非ムスリム住民との抗争、③イスラーム法の私的な「執行」に区分することが可能

である。①は「東南アジアのアル=カーイダ」とも称されるジャマア・イスラミヤ（以下JI）が主要な行為主体であり、本研究ではこの集団を主たる研究対象とする。

JIについてはこれまで「国際危機グループ」による詳細なレポートがインターネットで公開されており、また [Abuza 2007] があ

る。しかしこれらは安全保障上の関心に基づく「テロリズム研究」であり、急進派が台頭する思想的、社会的な背景についてはほとんど考慮されていない。本研究は急進派の人々が書いたものを読み、インタビューを通して思想の具体的内容と彼らが台頭する背景を明らかにしようとしている。地域研究者の成果としては、JI をインドネシアにおけるイスラーム政治運動史において位置づける試論的な [van Bruinessen 2002] が、暴力発生 の社会史的アプローチとしては [Sidel 2006] がある。この二つの研究は応募者の着想に大きな影響を与えており、より詳細で実証的に JI の歴史的な位置づけを行いたいと考えている。

②については個別の紛争についていくつかの研究があり、とりわけアンボンの紛争に関与したラスカル・ジハードを詳細に研究した [Hasan 2006] があり、同書は③の主体となっているグループの背景についても言及がある。地域紛争への JI の関与については「国際危機グループ」のレポートが詳しい。本研究において重要なのは暴力の種類とその行為主体の社会的思想的な腑分けであり、上記諸研究の蓄積はそうした作業に極めて有用である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、インドネシアにおけるイスラーム主義急進派がなぜ暴力的な行動を採るのか、その理由を明らかにすることにある。より具体的には、第一に急進派の何が急進的であるのか、その運動の目的とイデオロギー的、組織的背景を明らかにする。休診的なイスラーム運動はごく少数派であるが、社会的政治的なインパクトは非常に大きく、またアメリカにおける 9 1 1 同時多発テロ事件に代表されるように「グローバルな」広がりを持つ運動である。したがって、第二にインドネシアのイスラーム政治運動史および世界的なイスラーム主義潮流における位置づけを明確にする。第三に運動に直接関わりのない「一般の」市民やメディアにおける急進派についての知覚、反対に現代社会に対する急進派の知覚と暴力の関係について明らかにする。急進派はあくまで当該社会に埋め込まれた存在である。急進派が台頭する社会的政治的な背景の分析は欠かすことができず、また急進的な運動は社会から一定の支持を受けたり反対に孤立する場合がある。

本研究は急進派ただそのものに注目するのではなく、思想・歴史・政治および社会・文化変容の文脈に位置づけることによって、現代インドネシアあるいはより広くムスリムが多数派を占める社会を照射しようというものである。

3. 研究の方法

本研究は主としてインドネシアにおけるイスラーム主義急進派の活動家や関係者へのインタビューと著作や研究書等の資料収集、現地ジャーナリストや国内外の研究者との情報および意見の交換、国内における文献の精読と学会等における発表、執筆活動によって構成される。

インドネシアにおけるインタビューと資料収集はこれまでも行っており、また関係者とは電子メール等による日常的な連絡がある。旧知の研究者らの人脈を利用することによって、現地では効率のよい調査活動が可能である。

現地調査と平行して、収集した諸文献の分析、世界的なイスラーム主義潮流やインドネシアの政治運動に関する論考を比較検討しつつ、研究成果の口頭発表および出版を進める。

4. 研究成果

インドネシアのイスラーム主義武装闘争派である JI および 2008 年結成の新組織ジャマア・アンソール・タウヒード (JAT)、イデオロギー的な急進派である解放党、また比較対象としてイスラーム主義穏健派の合法政党である福祉正義党や大学キャンパスを中心とする宣教運動の活動家に継続的なインタビュー調査を行い、また当該組織についての資料収集をした。これらの情報と資料および既存研究の検討、また研究者およびジャーナリストとの意見交換を参考にして、研究のまとめ、分析、発表を行なった。

具体的には、内部文書を含む資料収集とその読み込みや武装闘争派への継続的なインタビューを通してその思想と社会的な背景を明らかにした。また武装闘争派の映像およびインターネットの利用、福祉正義党党员による出版ビジネスについてその「市場戦略」を詳細に分析し、研究成果を発表した。

端的にいえば、イスラーム主義勢力はそれぞれの目的を達成するために、「市場」動向に敏感に反応し、思想やイデオロギーを VCD (ビデオ CD) や書籍、ウェブコンテンツとして「商品化」をしている。

武装闘争派は本研究当初においては英雄的な戦いを強調する VCD の制作販売を行っていたが、次第にインターネットを活用するようになり、映像の頒布は動画投稿サイト Youtube に取って代わられた。またメーリングリストや国内外の主要ニュースメディアと似たようなニュース配信サイトを構築し、イデオロギーの受容者たちの日常的な需要に答えている。出版物においては、アラブを

中心とした武装闘争派の著作を特定サイトからダウンロードして翻訳、出版している。それとともに、同じく翻訳であっても日常の家庭的なイスラーム法のニーズに応えるような著作も多く出版している。穏健派の福祉正義党においてはとりわけ（政治的イデオロギーよりも）社会における成功を目指すマニュアル本や恋愛を含む小説、党员による手記も多く出版されている。

以上の主として質的調査と分析に加え、2010年にJICA研究所が行なった世論調査を用いて量的にもインドネシアの政治諸勢力を分析し、新しいイスラーム政治の「地図」を描いた。すなわちスハルト体制期の政治的变化や急速な社会的変化によって、ナショナリスト／イスラーム系政党、サントリ／アバンガン、ナフダトゥルウラマー／ムハマディヤといった既存の二分法は分析ツールとしての限界をみせている。報告者は2009年総選挙の分析を通してナショナリスト／イスラーム系政党の境界線の曖昧化を明らかにし、政党支持や宗教的政治的な意見、宗教実践と社会的背景（性別、年齢、都市／地方、教育、所得など）の相関関係を明らかにした。例えば、いわゆるナショナリスト政党の民主主義者党は選挙運動において宗教的アピールをしており、世論調査の分析からも、その支持者はイスラーム系政党とみなされている国民信託党や福祉正義党と共通の社会的背景を持っていることが明らかになった。組織的には、これまで二大組織とされてきたナフダトゥルウラマーとムハマディヤの他に、多様な実態があることを明らかにした。小規模な勉強会を中心とするマジェリス・タアリムは実にムスリムの世論調査回答者の2割が組織的な所属意識を持っており、彼等はまた民主主義者党支持との相関関係があった。本研究の主要な対象である武装闘争派は極めて少数派であるが、ウラマーの政治的役割への期待や土着的な文化的な伝統に対する冷淡な態度など、共通する志向が一般的にも共有されていることが明らかになった。

さらに、中東のいわゆる「アラブの春」と呼ばれる一連の政変を踏まえ、1998年に民主化から10数年を経たインドネシアとの比較研究を行なった。安易な比較は禁物であり、報告者はエジプトの政変後に発表された1998年のインドネシアにおける政変との比較の多くを批判的に検討した。ただし、イスラーム主義運動の展開についてはエジプトを主たる起源とするムスリム同胞団とその変質において地域を超えて共通する点があることを指摘しておきたい。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ①見市建「変わるインドネシアのイスラーム地図」『地域研究』12-1、2012年、159-173頁（査読有）。
- ②見市建「中間層の拡大とイスラームの『商品化』」『りそな一れ』2011年8月号、9-11頁（査読なし）。
- ③見市建「グローバル化とムスリム社会の食文化」『明日の食品産業』2010年4月号、12-18頁（査読なし）。

〔学会発表〕（計6件）

- ①見市建「イスラーム運動研究における国家と地域性」東南アジア学会、東海大学、2011年12月4日。
- ②Ken Miichi, “Rediscovering Plurality in Japan,” Workshop on Multiculturalism in Southeast Asia, PPIM, UIN Jakarta, 23 March 2011.
- ③Ken Miichi, “Political Adaptation of an Islamist Party in Indonesia: The ‘Market Strategy’ of the Prosperous Justice Party (PKS),” Training Indonesia’s Young Leaders, UIN Jakarta, 24 January 2011.
- ④Ken Miichi, “Democratization and ‘Failure’ of Islamic Parties in Indonesia” Locating Islam in Southeast Asia, JICA Research Institute, 26 July 2010.
- ⑤見市建「インドネシアの民主化と政治的安定」日本政治学会、関西学院大学、2008年10月12日。
- ⑥Ken Miichi, “Salafism Traits Among Militant Islamists in Indonesia,” IAS-AEI International Conference, New Horizons in Islamic Area Studies, University of Malaya, 23 November 2008.

〔図書〕（計5件）

- ①松本弘編『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック』明石書店、2011年（見市建「インドネシア共和国」522-533頁担当）。
- ②新井一寛・岩谷彩子・葛西賢太編『映像にやどる宗教 宗教をうつす映像』せりか書房、2011年（見市建「東南アジアにおけるイスラーム主義武装闘争派の映像戦略—インドネシアを中心に」55-70頁担当）。
- ③本名純・川村晃一編『2009年インドネシアの選挙』アジア経済研究所、2010年（見市建「イスラーム化の進行とイスラーム系政党弱体化の矛盾」109-130頁担当）。
- ④森孝一編『ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか』明石書店、2008年（見

市建『『テロリスト』の来歴 インドネシアにおける武装闘争派の思想と行動』82-103 頁担当)。

⑤桃木至朗・見市建他編『新版 東南アジアを知る事典』2008年、729頁。

〔その他〕

ホームページ等

「中東・イスラーム諸国の民主化」データベース>>インドネシア

http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~dbmedm06/me_d13n/database/indonesia.html

6. 研究組織

(1) 研究代表者

見市 建 (Miichi Ken)

岩手県立大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：10457749

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：